

液体及び気体から連想される英語動詞群の意味分析

ITO, Koichi / 伊藤, 幸一

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

77

(開始ページ / Start Page)

85

(終了ページ / End Page)

98

(発行年 / Year)

1991-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00005449>

液体及び気体から連想される 英語動詞群の意味分析

伊 藤 幸 一

はじめに

気体や液体の移動に関しては、固体との類似・平行を見て取れるけれど、例外的言及は別として「動くことを連想させる英語動詞群の意味分析」では考察しなかった。「動かすこと及び物理的变化を連想させる英語動詞群の意味分析」では液体、特に水、気体、特に空気に関しては別途にまとめる方が良いと考え、なるべく言及を控えた。それぞれの分析の『はじめに』述べたことの一部を引用して確認すると本稿の主旨が明らかとなる。

物の動きや変化を観察してみると、特に、水の特異性に気づく。日常の使用量、遍在性は言うまでもなく、浸透性、蒸発、凍結など、その包括性ゆえ、水を話題にするだけでも意味論としての価値が十分あるように思える。液体だけでなく、気体を含めての流動体の代表である。

いわゆる物としては見づらい空気も気になる。一般的には視覚に訴えないこともあり意識されないが、混合気体であり、水とは違った意味で包括的である。水における波は、空気では風と言えるが、波で伝わる音と同様に、光や熱や煙の源になる火のことも考えざるを得ない。

水と空気に、それぞれ、液体と気体の特徴を読み取り、更に、流動体自身の特異性や共通点を求めることになる。両者は今や汚染の問題を抱えているが、大地を取り巻く水、空気、そして火を対象とすることになると、くしくも本稿は、いわゆる四大の、ある側面を考察することにはならないだろうか。

むしろ自然の中での流動体の動きを順次、便宜的に『液体』と『気体』の下に分類し、分析するが、『まとめ』では、より広く、固体を含めての変化を考察する。該当する英語表現は一度記すだけに止どめたいが、重複せざるを得ない

物もある。いちいち指摘しないが、比喩表現、あるいは拡大表現であろうと思われる物も重要ならば記す。

固体との類似・平行を見て取れ、上記の二分析とは重複する部分もあることは、既に指摘した。また、基礎加熱料理語彙と交錯する部分もある。全般的に名詞表現の方が認識的に優越するだろう表現もあり、そちらからの再分析の余地もあるが「自然とその現象にかかわる名詞群分析」で分析済みの部分は、なるべく言及を控える。

液 体

一定の体積はあっても一定の形のない液体は、掴みようがないが、具体的に水なら、どうであろうか。それも、自然の中で人為的に川を堰止めて作ったダムを想定するのはどうであろうか。

《水流・波・増水》 水は高い所から低い所へと流れる。それなりの量が、それなりの速さで流れるのが FLOW である。その流れの速さを強調するのが RUN であろうか。STREAM は流れが継続し、線状につながることを強調する。それがサラサラと静かだと BABBLE, MURMUR が適用され、激しくゴボゴボだと GURGLE である。時と場所により、流れの勢いを変えながら山間へと流れ込む。かなりの激しさを以って注ぎ込むと POUR である。高きから低きに落ちることなので、滝を意味する FALL も適用される。

山間の本流を堰止め貯水するのは DAM である。流れを止めるのは STEM であるが、水自身は淀むことになり STAND が適用される。その前に、流れの速度を弱める SLACKEN の状況があるだろう。このままなら増水の一途を辿ることになる。水位が上昇するのは RISE である。時に、急な増水は、みるみる下から盛り上がるので、膨張や「うねり」を意味する SWELL も適用される。

おおよそ静かな水面も、風が吹くと波立ち UNDULATE が適用されることになる。小さな波が起きるのは RIPPLE, DIMPLE であるが、激しく SURGE して岸まで ROLL して行き、そこで BREAK、激しく水しぶきを飛ばすと SPLASH である。そして岸辺にヒタヒタ打ち寄せるのは LICK であり、ピチャピチャなら LAP であろうか。激しさに違いはあれ、岸辺を洗っているようにも見え WASH も適用される。更に BATHE も挙げておこう。ついでながら

FOAM は一般的に泡立つことである。また、激しい乱流は渦を巻き SWIRL, WHIRL が適用されるが、渦そのものを強調すると EDDY である。言うまでもなく、以上どれも、水が流れている場合には当然、起きる。より一般的に、掻き回したり、乱したりは STIR, AGITATE である。

一般的に、満たすのは FILL であるが、淵まで、と強調すると BRIM が適用される。越える意の OVERRUN は溢れ出ることを暗示するが、真に、溢れ出るのは OVERFLOW である。一杯になって、こぼれるというなら SPILL が適用されても良い。整然と、滝のように流れ落ちれば良いが、いわゆる堰を切ると、然るべき所でない所にまで水が広がる。EXPAND, SPREAD, SPRAWL などが挙げられるか。

水浸しとなり FLOOD が適用される。海など、潮が満ちて来ることに、既出の FLOW と共に用いられるので、その様子は想像に難くない。このように川など溢れ出して、ということなら INUNDATE も適用される。更に、大雨による氾濫を暗示するのが DELUGE であろう。

濁流となって何もかも巻き込み、沈めてしまうのは OVERWHELM であり、一挙に飲み込むのは ENGULF, SWALLOW であり、押し流して一掃してしまうのは SWEEP である。静かになっても DROWN, BATHE が適用されるだろう。人々は文字通り泥沼にはまって、身動きが取れない状態にさせられる。これには MIRE, SWAMP, BOG などが適用される。水が引くのは DRAW, 海などの場合は EBB であるが、水がはけるのは DRAIN である。それまで待つか。尤も、これには水をはかす意もあり、目的は違っても次に示す取水の方法はどうであろうか。

このようなことがないようにダムは本来、考え出されたのであり、当然オーバーフロー防止がなされている。また、水道水を過不足なく得られるようにも意図されており、取水が然るべく行なわれている。SIPHON, PUMP などが適用される。

《放流・比重》 そして、状況に応じて、堰の然るべき高さから放流もなされる。理論的には、その位置まで水位が下がることになる。これにも既出の FALL が適用される。

排出口を設けて出すのは VENT であるが、故障でなのか、隙間から漏れているような状況もある。ジワジワ染み出るのが OOZE である。EXUDE も挙げておこう。滴り落ちるのは DRIP であり DROP も適用して良いか。壁を伝

わって滴り流れるのは TRICKLE である。少し出口が大きくなると、水圧によって、飛沫を迸らせることになり SPURT が適用される。水鉄砲のようであれば SQUIRT であり、トウトウと噴水のようであれば SPOUT である。更に大きく口を開ければ、噴出油井のよう GUSH ということになる。短時ならば FLUSH も適用される。後は既出の POUR など、冒頭に掲げた表現へとつながって行く。これも度を越せば、オーバーフローの場合と同様に、氾濫を起こすことになるのは言うまでもない¹⁾。

放流された水は水路を切り開いて行く。CHANNEL が適用されるか。水路そのものを強調すれば COURSE であろうか。あちこちに SWERVE, DEVIATE しながら、ゆっくりと TWIST, MEANDER して進むのである。他の流れと JOIN, MERGE することで、ある意味では CONVERGE して大河となり、海へと注ぐ。ところで、水門を設け、人工水路に流し出すのは SLUICE であり、運河を作ることは CANALIZE である。川の流れを、そらすことになれば DIVERT であり、それを分岐すると見れば DIVERGE である。

水を撒くのは SPRINKLE であり、特にホースを使って行なえば HOSE であるが、それに似て、川の流れは大地を灌漑する。IRRIGATE が適用される。WATER も挙げられるが、水、本来の意義は、ここに代表されるというのだろうか。

また、水の流れは浸食作用を持っていて ERODE が適用される。繰り返す WASH も挙げざるを得ない。上流の急流では、その暇もないが、流れが収まると微細な粒子も沈澱し、堆積させる。DEPOSIT であるが、この状況には SETTLE も適用される。沈泥は、時に、流れをふさぐ。これには、その沈泥の意を持つ SILT が適用される。ついでながら、水底を浚う必要も出て来るが DREDGE である。

つまり、比重の少しでも大きい物は沈むということである。SINK が適用される。比重の小さい物は川底に巻き込まれても RISE して水面に現われる²⁾。SURFACE であり、浮くことを暗示する。明確に、浮くのは FLOAT である。それが漂うことになると DRIFT が適用される。ついでながら、比重に関係なく水面から現われ出るのは EMERGE である。

《浸透・蒸発》 ダムの水位は取水や放流をしなくても下がる。地下に染み込み、漏れるからである。ESCAPE も適用されるが、漏れるのは LEAK,

SEEP であり、漏れ出すことだけでなく、染み込むことも意味する。FILTER, PERCOLATE は染み込ませるだけでなく、濾過することも意味する。濾過されて地下水となった後、湧水となって再び地表に現われ出る。SPRING, WELL が適用されるか。湖や川の源泉となることもあるが、地質によっては沼や湿地帯となるか。

このように水には浸透する性質があり、水を REPEL すれば別だが、物を濡らし、あるいは湿らす。一般的には WET が適用される。乾燥していないことを強調するのが MOISTEN であろうか。結果的に、かなり湿っている、あるいは濡れていることを暗示するのが DAMP(-EN) であろう。もうこれ以上、含めない飽和状態になっているのが SATURATE である。その程度を越えて、ビショ濡れになっているのが DRENCH であろう。

このような状況にするには水の中に突っ込めば良い。PLUNGE が適用される。一部分あるいは瞬時、漬けるのは DIP, DUNK であろう。水面上に出ている部分を瞬時、水に沈めるのは DUCK である。全体を水に沈めることを強調すると IMMERSE である。それも、水中深く沈めて置くのは SUBMERGE であろう。DOUSE, SOUSE は水を掛けることも意味するか。

どちらかと言えば、吸収したことでビショ濡れであることを暗示するのが SOP であろうか。吸い取ることだけなら BLOT, SPONGE を挙げられる。SODDEN は「ふやける」ことも暗示するか。「ふやかす」あるいは柔らかくするのは MACERATE であり、水で戻すことも意味する。柔らかくするのは SOFTEN でもある。これらには一般的に SOAK が適用されるだろう。STEEP は更に、何かを浸出させることや、漬け込むことも意味する。お茶が出るのが DRAW であり、色が滲むのが RUN であり、漬物を漬けるのは PICKLE でもある。柔らかい紙だと溶けてドロドロになる。PULP が適用される。

ここまで来ると、水の溶剤としての側面を考えざるを得ない。砂糖や、粉末ジュースなど、水で溶かすのは DISSOLVE である。一般的に、溶かすことには MELT が適用される。カルシウム、マグネシウムなどを多く溶かし含む硬水は、石鹼を泡立てないので洗濯には適さない⁹⁾。ついてながら、水で薄めるのは DILUTE であるが、再び WATER を挙げざるを得ない。これも水の重要な意義なのであろうか。希釈し過ぎると、いわゆる水っぽくなってしまふ。DROWN が適用されるか。

ここまで指摘した水の性質を総括すると、洗うことにつながらないだろうか。これらの、どの性質も、水温が高ければ高い程、効力がある。一般的に、洗うことは、繰返さざるを得ない WASH である。石鹼を使つての場合は SOAP である。ついでながら、石鹼が泡立つことには、特に LATHER を挙げておこう。その泡や石鹼分を落すことも含め、ゆすぐのは RINSE である。ケガの傷口の洗浄を含め、洗い清めるのは CLEANSE である。一般的に、きれいにすることには CLEAN が適用される。

洗濯というのは、洗って乾かすまでを含まないだろうか。一般的に乾燥させることには DRY が適用されるが、一見、濡らすことの反対であると考えられる。空气中に放置するだけでも良いが、然るべく加熱することで促進される。水分を蒸発させることであり、極端な場合には、粉末のドライミルクを得ることになる。食品の保存に関しては DESICCATE の方が適切であらうか。あるいは、文字通り水分を奪うことを意味する DEHYDRATE も適用される。

ついでながら、WASH が可能かどうかということは、乾燥後、縮まないかどうかということである。一般的に、水は物を「ふやかす」が、乾燥後、縮ませる。革など、典型的であり、SHRINK などが適用される。障子張りの仕上げの霧吹きは、これを利用している。また、血など固まるのは CONGEAL であるが、接着用の糊は、その結果、用を足すことになる。そして、ドライミルクのことも考え合わせると、乾かすことは濡らすことの反対だけではなさそうである。

ダムの水位は蒸発によっても、かなり下がる、と言いたかったのである。気温が高ければ、より激しいが、EVAPORATE, VAPORIZE, GASIFY などが挙げられる。雨上がりに太陽が照って、地面や水面から蒸発した水蒸気が湯気となって立ち登るのを見る。STEAM が適用される。「焼け石に水」をも思わせる。雲間からの太陽光線が、はっきりと束をなし、えも言えぬ光景を見せるのは、この時であらう。それとも空には虹が掛かるだろうか。

気 体

一定の体積も形もないので、液体よりも掴みようがない。液体における水の位置は、気体においては空気が占める。まずは、説明の都合上、『液体』で水が蒸発した後の水蒸気の行方を追うことにする。

《露・霧・雨》 水蒸気は空気の重要な成分の内のひとつである。地面や水面から蒸発した水蒸気が多くなると、水が介入したのと同じ効果を物に与えることがある⁴⁾。湿らすだけではない。

気温が急に下がると室内でも水蒸気が飽和状態になり、細かな水滴を形成、窓ガラスなどに付き曇らせる。汗をかいたようで SWEAT が適用される。戸外でも夜や朝方、冷えて草や木に露を結ぶ。BEAD が適用されるか。BEDEW は濡らすことを強調している。大々的に大地の近くの空気中で凝縮すれば霧になる。まずは HAZE が適用されるだろう。今、述べたガラスを曇らせることも意味する MIST, FOG も挙げざるを得ない。気温が更に下がると、露は霜になり FROST が適用されるか。霧はダイヤモンドダストに変身、呼吸さえも真白く凍てつく。

また、上空まで昇って冷やされると、雲を形成する。CLOUD は一般的に曇らせることであるが、雲が地平線上にモクモクと積み重なるのは BANK である。更に上空に登って凍結することもある。それぞれ、重力によって地表に向かって落下する。一般的には GRAVITATE が適用されるが、大気中において沈澱するのは PRECIPITATE である。具体的な落下物を強調すれば RAIN SNOW, SLEET, HAIL などが適用される。

しかし、太陽の影響で気温が上がると、これらは水蒸気に逆戻りして消散することもある。風が吹いて飛ばされることもあろう。一般的に、分散させるのは SCATTER であるが、ここでは DISPERSE, DISSIPATE を挙げておこう。対象となるのは後述する煙なども含め、浮遊物のように軽い物だけではない。ついでながら DISPEL も挙げておこう。

小雨や雪がパラつくのは、水を撒くようでは、SPRINKLE が適用される。SPIT も挙げられる。パラパラと音を強調しているのが PATTER である。雨や霰など、激しく叩き付けるのは PELT であり、あるいは WHIP も適用されるか。バケツを引繰返したような場合は、文字通り BUCKET が適用される。激しく降り注ぐのは、繰返し挙げられる POUR である。CASCADE も挙げておこう。

大気に沈澱が起きる際、排気ガス、スモッグ、埃などを誘い、空気をきれいにしてくれる。CLEAR が適用されるか。酸性雨は困り物であるが、大地に降り注ぎ、大地を洗うことにもなる。繰返し WASH を挙げざるを得ない。後は『液体』の冒頭へと状況はつながって行く。

《気流・風》 説明の都合上、後回しになったが、当然『気体』の冒頭で言及して然るべきことであろう。大地を覆うように存在する空気は、気流として、気圧の高い方から低い方へと全般的に流れる。水の流れと同様に FLOW, STREAM などが適用される。時として、大地の窪みや穴に澱むことがある。それも有害な気体だったりして、澱むことは、むしろ嫌われる⁹⁾。

密閉された部屋は、時に窓を開け、空気を入れ換える。場所によっては、排出口を設け換気扇を使う。FAN が適用されるか。煙突を設ければ FUNNEL である⁹⁾。外気が自由に入る場合は、内部の空気を出すだけで換気は行なえ EXHALE が適用される⁹⁾。地下の工事現場などでは、内部の気圧が高くなる程に外気を送り込む。COMPRESS を適用して良いか。使われる 道具を強調すると PUMP が適用されるが、既述した水の場合とは方向が異なる。

どの換気の方法にも VENTILATE が適用される。通風は空冷の意も含む。専ら、然るべき装置によって温度や湿度まで調節するのが CONDITION である。ついでながら、大地を耕したり、湯揉みをして外気に触れさせることには AERATE が適用される。特に、ソーダ水を作るべく炭酸ガスを水に通すのは CARBONATE である。

水に波が立つように、空気には風が吹く。一般的には BLOW が適用されるが、かなりの風圧を暗示する。管楽器の吹奏や、「ふいご」での送風をも意味する。風がそよぐのは呼吸をしているようで BREATHE が適用される。急にプッと吹くのは PUFF であり、SL が蒸気や煙を吐き出す様も意味する。急に方向を変えることもある。VEER が適用される。雨などが混ざることもあるが、激しい場合は STORM である。RAGE も挙げておこう。

風も大地に影響を及ぼす。立ってられない程、激しく吹き捲ると、氾濫の場合のように SWEEP が適用される。吹き飛ばされるのはゴミや埃だけでは済まなそう。時には、龍巻と言わないまでも渦を巻き、水上では大波を起こし、舟を弄ぶ。上昇気流に乗って砂塵が上空を舞う。それ程の風でなくても木や、木の枝や葉を揺らす。生い茂った麦畑は波を打つ⁹⁾。

風が収まっても軽い物は、水に対する如く浮いている。雲など漂うことも意味する DRIFT は、風が吹き寄せ、雪や落葉などを積もらせることも意味する。SUSPEND, WAFT は微細なゴミや埃が宙に浮いていることを意味する。空気は、意識されないが、水と同じように動き、存在しているのである。

水の流れや波が音を伴うように、気流や風も音を伴う。暴風が怒号する

のは ROAR であるが、雷などにも適用される。強風が唸るのは BELLOW であり、ヒューヒュー吹くのは HOWL であり、ピューと吹くのは WHISTLE であろう。木々の間でざわめくのは、せせらぎと同じ MURMUR であるが、どちらかと言えば、木の葉の音ではないのだろうか。布切れがパタパタ揺れるのは LAP, FLUTTER であろう。風か波か、吹き荒ぶのは BLUSTER であるが、BOOM も挙げておこう。それぞれの音の波は、大気を伝わって聞こえて来る。

《炎・煙》　ここまで来ると、音と同様に波を以って伝わり、その速さに特徴を持つ光を考えざるを得ない。光も流れるのである。まずは、代表的光源である火に関して、燃焼を取り上げよう。

燬んだ空気の話に戻る。見知らぬ 洞穴などに入る場合は、着火したタイムツを持って入るべきである。尤も、可燃性のガスが充満していると爆発の危険がある。爆発するのは EXPLODE である。酸欠であれば火は消える。EXTINGUISH, QUENCH が適用される。SMOTHER も挙げておこう。

一般的に、燃焼するのは BURN であるが、明かりを点けることも意味する。なかなか火が付かず、少しずつ燃え立つことを暗示するのが KINDLE であろうか。一方、それでも急激に燃え立つのが IGNITE であろう。可燃性ガスの引火を思わせる。どちらかと言えば、即、燃え立ち、火自身を強調しているのが FIRE であり、心の内の炎までも暗示するのが INFLAME であろうか。

炎が、はっきりしないのが FLICKER である。ユラユラ燃えるのが FLAME であり、特にガスの燃焼を暗示するか。激しく燃えるのが BLAZE である。炎に注目しても、その明かるさは比例し、区別がつけ難い。パッと明かるいのが FLARE であり、ギラギラ明かるいのが GLARE である。GLOW も仲間として挙げられるが、どちらかと言えば赤熱を暗示する。熱とも比例することになるのだろうか。火は光と熱を発するのである。RADIATE が適用される。熱源は火以外にも考えられるが、熱が空気や水に伝わると気温、水温を上昇させる。その意義については僅かながら既に言及した⁹⁾。また、炎も RAGE, ROAR など、風や波のような動向を示すことは想像に難くない。

火を付けることだけでなく、文字通り、辺りを明かるくすることも意味するのが LIGHT である。明確に、光を照らして明かるくするのは ILLUMINATE, ILLUMINE であろう。光源は炎以外である可能性がある。閃光を発するのは FLASH であるが、雷を連想させる。雷は電気であると言って良

い。ついでながら、電気も波を以って伝わる。火花を散らして輝くのが SPARKLE である。遠くの星や町の灯が瞬くのは TWINKLE である¹⁰⁾。太陽が輝くのは SHINE であろうか。

音、光、熱、電気などが伝わるのは TRAVEL であるが、伝えるのは COMMUNICATE であろうか。専門的には CONDUCT, TRANSMIT が用いられる。遮るのは INTERCEPT, SCREEN などであり、反射するのは REFLECT であり、吸収するのは ABSORB である。そして、流れる炎も含めて、水と同じように漏れたり、溢れたり、洪水になったりする。

ところで、火付きの良くない場合も示唆したが、一般的に炎と煙は拮抗する。燻るのは SMOLDER である。専ら、煙を発することを強調すると SMOKE が適用される。喫煙や、燻製作りも意味する。燻すことでは燻蒸の意もあるが FUMIGATE の方が明確か。煙がモクモク出るのは ROLL である。

煙によっては有害なガスや悪臭を放つ。炎が光や熱と混同されるように、煙は臭いと混同されることがある。煙というよりもスモーク、あるいは正確には蒸気であるが、刺激臭のあるアンモニアガスを、木材などに当てて燻すのは FUME である。またこれは広く、煙、蒸気、香気を発することも意味する¹¹⁾。ここで REEK も挙げておこう。

芳香を発する香水を使うことは PERFUME である。溶剤である揮発性のアルコールを、更に蒸発し易くするために、噴霧することが多い。水煙を挙げることも意味する SPRAY が適用される。ATOMIZE も挙げられるが、こちらは固体を粉々にすることも意味する。

粉状化には POWDER も適用されるが、こちらはまた、粉を振り掛けることも意味し、粉おしろいを付けることも含む。多く集まることで、やっと意味を持つであろう粉状の物として、粉ジュースなど、既に言及したが、それらも流動体の仲間に加えて良いのかも知れない¹²⁾。より大きな粒状、豆状の物の他、更に大きな人や車の集合体も波を作る。

より抽象的に言えば、流動体は解き放たれると広がる。化合物から気体やエネルギーが遊離する場合 LIBERATE が適用される。発するということでは EMIT, ISSUE, EMANATE などが挙げられる。吐き出すと言った感じでは EJECT, DISCHARGE, DISGORGE などであろう。広がることになると DIFFUSE が適用されるか。むしろ覆うと言った感じは SUFFUSE であろう。更に PERMEATE, PERVADE は浸透する意が強く、PENETRATE

は貫く意が強い。染み込むのは INFILTRATE である。以上どれも、気体以外にも適用されることは言うまでもない。

ま と め

ここまでは、流動体を『液体』と『気体』とに分類し、主に、流れて動く側面を自然の中で捕えて来た。流動体は両方を意味するが、どちらかと言えば液体のことであり、水あるいは水分が中心となったことには問題はなからう。しかし、上記の分類は便宜的とは言え、問題を残す。ここでは、その分類を越えて、特に、変化する側面を考察する。

《冷却・加熱》 空気中の水蒸気も含め、水よりは、むしろ水溶液あるいは水分を多く含む物を想定して冷却することから考えてみる。まずは COOL が適用されるか。凍結する程度にまで冷やすとなると CHILL である。明確に、凍結させるのは FREEZE である。REFRIGERATE は冷蔵庫を連想させる。ついでながら、霜を取るのは DEFROST であるが、冷凍を戻すことも意味する。解凍するのは THAW でもある。室温に放置しても加熱しても良い。春先の大地の雪解けや、冷えた身体を暖めることにも適用される。

加熱して暖めるのは WARM であり、熱するのは HEAT である。そのうち水や水溶液だと内部から気泡が出始める。その辺りまでの加熱が SIMMER であり、以降が BOIL である。泡を強調すると BUBBLE であり、あるいは SEETHE も挙げられる。蒸発する EVAPORATE は解凍の段階から既に始まっているが、今やもう湯気を伴ない、はっきり見て取れる。STEAM が適用されるか。また、これは、その湯気を当てて蒸すことも意味する。

蒸発が進むと、煮物などは焦がすことになる。ついでながら、色々な材料を、意図的にも含めて、表面的に焦がすことには SCORCH, SEAR, SINGE などが適用されるが、むしろ焦がさずに、内部までも加熱して乾燥させるのは BAKE, PARCH, TOAST などである。料理法も連想させるが、太陽が強く照りつける様子をも思い浮かべさせる。一般的に、焦がすのは BURN であるが、後はもう発火せざるを得ない。既述の燃焼の状況へとつながって行く。

《液化・気化・固化》 水のかかわる状況での液化、気化、固化は、上述したように、温度が重要な役割を担うことは言うまでもないが、一般化しても、ほぼ同じことが言える。

結果的に液体に変化させる意の液化は LIQUEFY である。固体からの場合は加熱によってが多い。一般的には MELT であり、水などで溶かすことも意味する。それは、どちらかと言えば DISSOLVE であろうか。FUSE は金属に対してであり、融合して合金にする ALLOY も意味する。一方、気体からの場合は冷却により、時に加圧を必要とする。一般的に圧縮するのは COMPRESS である。CONDENSEも適用されるが、蒸気を雫に凝縮することや、液体を逆に加熱して蒸発させ、濃縮することも意味する。後者は CONCENTRATE でもある。

気化は GASIFY あるいは VAPORIZE であろうか。液体からの場合は、加熱して蒸発させることであり、繰返し言及している。固体からの場合はドライアイス昇華が挙げられる。それは SUBLIME, SUBLIMATE である。

固化は SOLIDIFY である。液体からの場合は JELL(-Y), CURD(-LE), CLOT など、挙げられるが、半固形化であると言って良いか。CONGEAL はどうであろうか。氷砂糖などの結晶化は CRYSTALLIZE である。気体からの場合は、既述した上空での水蒸気の凍結が挙げられるか。

《固体変化》 生石灰の固まりに水を加えると、粉末の消石灰が得られる。DROWN が適用されるか。また、圧力を加えて粉にすることもある。ガラスなど粉碎するのは SMASH, SHATTER であるが、意味合いが少し異なるか。穀類など、碾いて粉にするのは GRIND である。ついでながら、粉や砂などを篩に掛けるのは SIFT であり、穀殻やゴミを、風を送って吹き分けるのは WINNOW である。

一般的に、押し潰すのは CRUSH であるが、水分の多い野菜や果実に対してであればどうであろうか。SQUASH, MASH はグシャグシャ、ドロドロに潰すことである。レモンなどを絞るのは SQUEEZE であり、リンゴなど下ろし金で下ろすのは GRATE である。LIQUIDIZE はジュースにすることを意味する。後は濾すことになるか。STRAIN が適用される。PERCOLATE, FILTER には既に言及した。ついでながら、木炭を使って水や空気を濾過する場合、汚れや臭いは、それに ADSORB 吸着するのである。

《攪拌》 水と油は交ざり合わないというが、乳化剤を使えば大丈夫である。EMULSIFY が適用される。一般的に攪拌するのは STIR あるいは AGITATE であろうか。ミルクを攪拌して泡立てるのは CHURN であり、バターを作ることを意味する。クリームや卵に対しては WHIP, BEAT が適

用される。泡立てることで FROTH を取って、ここに記しておく¹³⁾。

酒類などを醸造するのは BREW であり、DRAW と共に、お茶を入れることも意味する。発酵させるのは FERMENT であるが、その際に泡立つのは EFFERVESCE である。SPARKLE と共に炭酸で泡立つことも意味する。液体表面の浮遊物を掬い取るのは SKIM であるが、上澄みを掬うことも意味する。共に上層が話題となるが、処理が容易だからであろう¹⁴⁾。ワインの上澄みを注ぐのは DECANT である。

煮詰めて得るエバミルクは、蒸発させる EVAPORATE を強調していて、ただ糖分が加わっていることだけが異なると考えられるコンデンスミルクは、濃縮する CONDENSE を強調しているのだろう。それならドライミルクは、すっかり乾燥させる DRY を強調しているのだろう。蒸発した蒸気を冷やして凝縮させるのは蒸留であり DISTILL が適用される。酒類のもうひとつの作り方でもあり、濃度が高いことを特徴とする。水割りにするのは DILUTE である。

エスプレッソコーヒーは蒸気を用いて蒸して入れる濃いコーヒーであるが、一般的にコーヒーを沸かして入れることには SIPHON, PERCOLATE, DIP などが適用される。いつの間にか飲物の話になって、少し具体的に過ぎるのかも知れない。しかし、本稿全般を見渡すと、最初に予測していた程には特殊でも、閉じてもない意味領域である。漏れてしまった下位範疇もあろう。またの機会に譲る。

注

- 1) このパラグラフは、目に涙が溜まり、溢れ、頬を伝わって流れる様や、ケガなどして血が出る様を想定しているとも見ることが出来る。
- 2) 流れの中でも、その他、「動くこと」や「動かすこと」を連想させる動詞群のかわるような動きも見ることが出来る。
- 3) 石鹸には種類があるし、硬水も軟化剤を使用すれば大丈夫である。柔らかくする意の SOFTEN は既に記した。
- 4) 以降、このような表現を用いて、該当する英語表現の記載の重複を避ける。
- 5) 水とは異なり、重要な気体、例えば酸素や燃料用ガスなどは、液化して体積を減らし、ボンベに貯えて使用する。液化については『まとめ』を参照されたい。
- 6) 漏斗の向きは液体などに対するのは正反対である。排出口からの流出は『液体』で既に述べた。通りのよし悪しには DRAW が適用される。
- 7) 対象は、汚ない空気と言えるが、具体的には埃や、後述する煙や臭いなどであろうか。
- 8) このパラグラフは「動くこと」「動かすこと」を連想させる動詞群の下位範疇の

うち、特に、揺れること、飛ぶことがかわる。

- 9) 前述した大気の沈澱物にかかわる冷却と共に、後で『まとめ』ることにする。
- 10) 大気が流れていることや、光が波によって伝わることを示す証拠であるという。
- 11) 理科の実験室等、化学薬品を使用する場所の独特の臭いは、これに由来するか。
- 12) 火山の爆発を考えてみたい。本稿がかかわる多くの物を噴出する。
- 13) 泡立つことのうち、波、石鹸、沸騰に関しては既に言及した。
- 14) 一方、既に述べたが、水底を浚うのは大変であろう。共に SCOOP, SPOON などを連想させる。とは言え、海面上に流出した石油は大変である。